

焼津市農業委員会委員選挙のお知らせ

平成24年3月21日任期満了に伴う焼津市農業委員会委員選挙の日程が次のとおり決まりました。

選挙により選ばれる委員の数は23人です。

【告示日】平成24年2月20日(月)

【投票日】平成24年2月27日(月)

【投票できる人】平成23年3月31日に調製された、農業委員会委員選挙人名簿に登録されている人

立候補予定者事前説明会

【日時】平成24年1月26日(木) 午後2時00分～

【場所】焼津市役所議会庁舎 3階 302号室

【参加者】立候補予定者1人につき2人以内

問合先 市選挙管理委員会

電話 626-1134

輸入食品の実態を見る。(横浜検疫所を視察して)

我々にとって最も大事なものは命です。

あの東日本大震災では2万人を超える死者・行方不明者が発生し尊い命が失われてしまいました。福島原発の問題は別として地震や津波といった自然の猛威に対してはいまだ人間は抗う術を持っていません。しかし国は国民の生命を尊重しなければならないということが憲法第13条に記されています。国が私たちの生命を脅かすようなことは絶対あり得ないと信じてきました。

特に食の観点から言えば、O157や狂牛病、中国毒入り餃子の問題など市民生活に不安を抱かせる問題もしばしば発生していますが、国も我々国民を守る立場で全力で動いてきたものと確信しております。しかし、平成23年11月18日、その確信が大いに揺らぎました。

その日、焼津市農業委員会も参加する志太地区農業委員会協議会の代表委員視察研修が開催され横浜検疫所を視察してきました。案内人は静岡市出身の奥村芳明氏(港湾労働組合書記長)です。この方は労働組合に席を置きながら輸入食品の実態を明らかにし、日本の食糧と農業を守るために奮闘してきた方です。

まず、見せられたのがテント倉庫の外側に野積みされた青い蓋付きのポリバケツです。中には中国産ヒラタケが入っています。ふたは簡単に開き、中から現物を出して見せてくれました。何か異様なものが出てくるのかと思っていたところ生白いが形の整ったヒラタケが出てきました。中には平成22年10月13日に搬入されたものもありました。奥村氏によれば以前はもっと大量に野積みされ、夏の炎天下でも放っておかれていたそうです。この他にもかなり痛んでいる木製の箱に入れられたきゅうりや発酵?して膨張した段ボール箱に入れられた野菜類などがありました。これは商社が輸入したものを販売先が決まるまでそうして保管して置くのだそうです。野積みされているのは保管料が倉庫に保管するよりは1/3で済むからだそうです。普通、生ものをそういった状態で長期間置けば腐敗したり、虫が発生するのではないかと思います。その場所にはハエ一匹いません。ハトやカラスも寄ってこないそうです。そこには衛生害虫さえ寄せ付けない何かがあるとしか考えられません。奥村氏は形さえあれば色や味は後で何とでもなると言っていました。

日本の科学技術は一流だということは誰もが信じて疑いません。食品に関してもその優れた技術が生かされていると思っています。取り分け食品を輸入する際その防波堤となるはずの検疫所では輸入農産物をくまなく調べ安心して消費者の口に入るようにしているものと思っていました。ところがほとんどの輸入食品検査が書類検査のみで通過している事実を知りました。直接現場で検査しているのは全体の3.4%にすぎないそうです。その上例え問題があり検査命令が出たとしても輸入業者が検査すれば良いことになっているようです。

またその輸入食材が加工に回されるものであれば食品衛生法の検査対象外の原材料と見做されてしまいます。最初に見たヒラタケは中国産ヒラタケとして売っているようですが、一度日本のどこかで加工されるとご当地産に早変わりです。日本の観光地の名産物として売られてしまいます。蕎麦、落花生、ワラビ、ラッキョウ、ワイン、梅干し、鮭、しょうが、カワハギ等、ありとあらゆる食材が加工食品として各地の名産品に品代わりし販売されているのです。これらの原料のほとんどが中国を始め世界各国から商社が輸入しているものだそうです。港にはこれらの日本の産地と言われる各地ナンバーのトラックが頻繁に出入りしているそうです。

奥村 芳明 氏 (港湾労働組合書記長)

(略歴等)

1948年静岡県生まれ(静岡出身)

港湾関係企業に7年間勤務後退社、1973年港湾労働組合の専従となる。現在、50分会組合員700名の労働組合の書記長として活躍中

港湾労働組合は1984年、外米輸入反対海上デモを実施以来、日本の食糧と農業を守るために、その先頭にたって奮闘してきた組合でもある。

また、「港湾関係物流実態調査研究会」を設立し、輸入食品問題を調査分析し「恐るべき輸入食品」(合同出版社1986年初版)として執筆。それを映像化したビデオ「それでもあなたは食べますか」が大反響を呼ぶ。

これまで、輸入食品の講演や港見学を年間100件以上行い、1万人以上の団体の人達と交流・研修を行ってきた。

どうしてこのようなことが起こるのでしょうか?食材を食品衛生法の適用外の原材料と見なし、日本で加工さえすれば製造元は日本となるという法律の網をくぐるようなやり方を何故認めているのでしょうか。食材にどんな防腐剤が入っていても平気なのでしょうか。国は商社等財界の利益を優先し、私たち国民の命をないがしろにしていると言っても過言ではありません。

奥村氏は冗談交じりに「昔は体に傷が付いたら膿んだものだ。でも最近の人は膿むことがない。これも防腐剤のせいかな。」と言っていました。でもこれは冗談ごとではないかもしれません。以前は見られなくて最近になって目立って発生している病気にアトピーや花粉症があります。また最近の若い男性の精子の数が減少するなど一般的に環境ホルモンが原因ではないか

と言われている現象も起きてきています。さらに子や孫の世代への影響はどうでしょうか。科学的にどうこう言える知見を有していませんが、毎日のように口に入る食品の安全性のチェックは大変重要だと思えます。それに疑いを持たせてしまう今の輸入食品に対する行政の在り方は大いに見直してもらわなければなりません。

TPP参加の問題に対して考えますと、この政策は関税撤廃がすべての分野にわたり行われるのが原則です。もちろん農業だけ例外というわけにはいかないでしょう。輸入食品の検査体制のずさんさを見てきた私たちに「TPPに参加しますが日本の農業も守ります」と言われても、もう信じるのが難しくなりました。TPPに参加するということは安い農産物がどんどん入ってくるということであり、現在でさえ検疫がまともにできない状態の中で、我々国民の命を本当に守れるのか甚だ疑問です。

農産物を輸入するということはその農産物をいかに保存してもってくるかということが問題となってきます。その農産物が傷みやすいほど保存には手がかかると思われますが、日本ではとても使用できないような薬品を使っても、ずさんな日本の検疫体制の中では簡単にごまかせてしまえるのです。TPP参加により、日本人の命がさらに蝕まれていってしまうことにならないか非常に心配です。